

3DCADによる構想設計で設計品質を格段に高め

3D&2Dデータで設計意図を正しく伝える

—3DCADを積極活用した設計情報改革と設計高度化手法

日時 2020年4月24日(金) 10:00~17:00
(9:30受付開始、休憩12:30~13:30)

※昼食のご用意がございませんので、ご準備いただくか休憩時間内に外食いただきますようお願い申し上げます。(休憩時間の会場内飲食は可能)

主催 日刊工業新聞社

受講料 44,000円(資料含む、消費税込)
*同時複数人数お申し込みの場合2人目から39,600円
*後日、別の方が追加で申込をされる際は、備考欄に先に申し込まれた方のお名前と複数割適用希望と記載ください。
(記載が無い場合は通常料金のご請求となります。予めご了承ください)
*日本金型工業会、中部プラスチック連合会の正会員の方は15%割引とさせていただきます。但し割引対象が重なる場合は、どちらか一つの割引を適用させていただきます。

会場 日刊工業新聞社 名古屋支社 セミナールーム
名古屋市東区泉2-21-28



日刊工業新聞社 名古屋支社 セミナールーム

名古屋市東区泉2-21-28
【アクセス】
名古屋駅から地下鉄桜通線徳重行に乗車。
4丁目「高岳」下車。1番出口より徒歩3分。

●申込方法

申込書をFAXにて下記にお申し込みください。ホームページからお申し込みできます。
(<http://corp.nikkan.co.jp/seminars/>) 受講料は銀行振込で受講票及び請求書が到着次第、開催日1週間前までにお支払いください。講座によりましては、申込者が最少催行人数に達していない場合、開催決定まで受講票ならびに請求書の発送を見合わせて頂く場合がございます。
なお、キャンセルにつきましては開催日1週間前までの受付とさせていただきます。1週間前までにご連絡がない場合はご欠席の方もキャンセル料として受講料全額を頂きます。振込手数料は貴社でご負担願います。

口座名義 (株)日刊工業新聞社名古屋支社
三菱UFJ銀行 栄町支店 普通預金 247021

●申込先 日刊工業新聞社名古屋支社 イベントG係

〒461-0001 名古屋市東区泉2-21-28
TEL 052 (931) 6158 (直通) FAX 052 (931) 6159
e-mail : nk-event@media.nikkan.co.jp

※会場には受講者用の駐車場がありません。必ず最寄りの公共交通機関でご来場ください。
※講義の録音・録画は固くお断りいたします。

受講 申込書

4/24 3DCAD

お申し込みは FAX 052-931-6159

■受講料：44,000円(資料含む、消費税込) *同時複数人数お申し込みの場合2人目から39,600円

※振込手数料は貴社にてご負担ください。

| | | | |
|-------------------------------------|------|---|--|
| 会社名 | フリガナ | 業種 | |
| 氏名 | フリガナ | TEL | |
| | | FAX | |
| 所在地 | 〒 | E-mail | ※今後、E-mailによるご案内を希望しない方は <input type="checkbox"/> チェックをしてください。 |
| | | 備考 | |
| <input type="checkbox"/> 日本金型工業会正会員 | | <input type="checkbox"/> 中部プラスチック連合会正会員 | |

※お申込み受付後、受講票ならびに請求書をお送りいたします。

No.207518

個人情報の取り扱いについて

ご登録いただいた情報は日刊工業新聞社が細心の注意を払い、展示会・セミナー・サービス等、各種ご案内を送らせていただくことを目的に利用させていただきます。
なお、宛先変更・配信停止をご希望の際は右記までご連絡ください。【ご連絡先】日刊工業サービスセンター 情報事業部 nkmail01@nikkansc.co.jp

開催主旨

3次元CAD (3DCAD) の普及に伴い、その積極活用を前提としたコンカレントエンジニアリングの推進による**設計のフロントローディング**が叫ばれて久しいです。最近では、各3DCADで構想設計を進めるためのツールが用意されており、**構想設計段階から一気通貫で3DCADを利用**する動きが広がりがつつあります。構想段階からの3DCADの利用は、従来のポンチ絵では困難だった断面チェックをはじめ、**開発初期の段階からきめ細かなデザインレビューを可能**とし、**設計品質のつくり込み**につながるからです。また、詳細設計のための**構成部品のばらし**などが容易に行える利点もあります。ところが、このような効果を認めつつも、後々に要求仕様を変更されることから構想設計を簡素にする傾向にあり、ポンチ絵で済ませる現場が多いです。

また、従来から3DCADの運用で大きな課題となっているのは、アウトプットとなる**設計情報のあり方**です。寸法や公差をはじめとする**重要な設計意図は2Dデータ**（紙図面など）の方が明瞭なため3D（モデル）データと2Dデータの組み合わせでなされます。しかし、伝達方法が社内はおろか、取引企業との間で**ルール化・標準化がなされていない**ために、混乱を招いている開発現場がいまだに多いです。

本講座は、**構想設計段階から3DCADを積極的に利用し**、かつ3Dデータと2Dデータの組み合わせにより**設計意図をより明確に伝える手法**を提案します。すなわち「**設計の高度化**」と「**設計アウトプットの高品質化**」を一気に目指します。

また構想設計を題材に、3DCADにより「簡単な検討」を容易に行う“設計ツール”としての利用方法や、3D設計を立ち上げるための設計マネジメント術も解説します。

講師

3Doors株式会社 CEO、東京大学 工学部 非常勤講師

SolidWorks社 ソリューション・パートナー **高橋 和樹 氏**

【略歴】 大手オーディオメーカーにて、メカ設計に従事、その後、CAD、PLMベンダーでコンサルタントとして多くの製造業で3次元設計やIT化推進に尽力し、多くの実績を顧客とともにあげる。現在は、3Doorsを立ち上げ、3次元設計やSolidWorksに特化した公差設計および運用、6σ（シックスシグマ）による開発プロセス支援、教育やコンサルティングなど、特に3次元化により全社的な最適化を推進することを得意分野としている。

プログラム

1. 構想設計段階から3DCADを利用する効果

- 1-1 開発プロセスと構想設計
 - ①開発プロセスのステップにおけるCADの適用範囲
 - ②構想設計における2次元構想と3次元構想の使い分け
- 1-2 いい加減な構想設計による手戻りの増大
 - ①従来型2次元構想設計の限界
 - ②手戻り例とその工数を検証する
- 1-3 構想設計で検討すべきこと
 - ①機構を持つ製品の場合
 - ②意匠形状を持つ製品の場合
 - ③組み合わせ部品による製品の場合
- 1-4 3Dによる構想設計とその効果
 - ①3DCADで構想設計ができるか
 - ②具体的な3DCADでの構想設計方法
 - ③3DCADが実現する新のフロントローディング
- 1-5 3D構想設計の実例とテクニック (SolidWorks編)
 - ①各種の製品での3次元設計例
- 1-6 3DCADで簡単な検討を容易に行うコツ
 - ①コンフィギュレーションの活用方法 (SolidWorks編)
 - ②設計に役に立つTips集

2. 3DCAD時代における図面情報

- 2-1 契約書としての2次元図面の必要性
- 2-2 2次元ー3次元のハイブリッド図面の活用方法 (e-Drawings編)

3. 3D設計時代の設計情報の伝え方

- 3-1 3Dモデルデータで表現できる設計情報とは？ (設計意図をより正しく伝える2D情報のあり方と作法)
 - ①3次元注記の現状と活用方法
 - ②色などの属性情報の活用方法
- 3-2 現状の後工程や協力企業への設計情報の伝え方
 - ①関係部署、協力企業が必要としている設計情報とは
 - ②情報の伝達方法とツールの利用方法
- 3-3 全社ならびに協力企業を巻き込んだ設計情報改革の進め方
 - ①失敗から学ぶ設計情報 (3次元設計) 改革
 - ②ステークホルダーを巻き込む改革
 - ③コンサルタントを活用して改革を加速する